

フラッシュ開発ツールキットご使用上のお願い

フラッシュ開発ツールキットの使用上の注意事項を連絡します。

- 識別番号書き込み機能の注意事項

1. 該当製品

フラッシュ開発ツールキット (Flash Development Toolkit)
V.4.03 Release 00 ~ V.4.09 Release 01

2. 該当マイコン

SuperH RISC engine、H8SX、H8S、H8ファミリのうち、
ユーザエリアとユーザブートエリアがオーバーレイしているマイコン

3. 内容

フラッシュ開発ツールキットでは、識別番号ファイルのヘッダ部分に記載された
メモリ領域を正しく認識しないことがあります。

そのため、書き込み先として登録されていない領域にも
プログラムが書き込まれたり、書き込みエラーが発生したりします。

4. 発生条件

4.1 以下の条件をすべて満たす場合、「User Boot Area」に登録された
プログラムをユーザブート領域 (ユーザブートマット) だけでなく
ユーザ領域 (ユーザマット) にも書き込むことがあります。

- (1) 識別番号書き込み機能が有効である。
- (2) 識別番号ファイルに、User Flashのメモリ領域を書き込み先として
入力している。
- (3) 「FDT Simple Interface」ダイアログボックス ->
「File¥Image Selection」 -> 「Download File」ボタンで
書き込み先を選択する際、「User Boot Area」のチェックボックスに
チェックを入れる。

4.2 以下の条件をすべて満たす場合、「User / Data Area」に登録された

プログラムをユーザ領域 (ユーザマツト) だけでなく
ユーザブート領域 (ユーザブートマツト) にも書き込むことがあります。

- (1) 識別番号書き込み機能が有効である。
- (2) 識別番号ファイルに、User Boot Flash のメモリ領域を書き込み先として入力している。
- (3) 「FDT Simple Interface」ダイアログボックス ->
「File/Image Selection」 -> 「Download File」ボタンで
書き込み先を選択する際、「User / Data Area」のチェックボックスに
チェックを入れる。

4.3 以下の条件をすべて満たす場合、ユーザブート領域 (ユーザブートマツト) への書き込みを二度実行することがあり、その場合、書き込みエラーが発生します。

- (1) 識別番号書き込み機能が有効である。
- (2) 識別番号ファイルに、User Boot Flash のメモリ領域を書き込み先として入力している。
- (3) 「FDT Simple Interface」ダイアログボックス ->
「File/Image Selection」 -> 「Download File」ボタンで
書き込み先を選択する際、「User / Data Area」と「User Boot Area」
両方のチェックボックスにチェックを入れる。

5. 回避策

上記の条件でフラッシュメモリへ書き込む場合は、
フラッシュ開発ツールキットのメイン画面で、「プロジェクト」メニュー ->
「イメージの再ビルド」コマンドを実行して作成されるデバイスイメージ
ファイル (ddiファイル) を使用してください。

6. 恒久対策

V.4.09 Release 02 (2013年11月末リリース予定) で改修します。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。
ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。